



支笏洞爺国立公園
指定70周年

どう活かす？どう守る？ みんなに愛される国立公園の未来形 支笏洞爺国立公園指定70周年シンポジウム

支笏洞爺国立公園指定70周年シンポジウム（環境省北海道地方環境事務所、洞爺湖町、壮瞥町共催）が9月28

日洞爺湖文化センターで開催され、関係者や住民など約160人が参加しました。支笏洞爺国立公園は、洞爺湖町を含む後志、石狩、胆振管内の6市7町1村で構成され、定山深地域、支笏湖地域、羊蹄山地域、洞爺湖地域、登別地域の5地域に分かれていて、昭和24年に国立公園の指定を受けてから5月16日で70周年を迎えました。



阿部宗広さんによる基調講演

主催者を代表して八木哲也環境大臣政務官は、「70周年シンポジウムが開催できること

に感謝しています。支笏洞爺国立公園は国内34か所ある国立公園の中でも屈指の風光明媚なところなので、この自然を次世代に残していくため、環境省としてもお手伝いをしていきたいです」とあいさつしました。

第1部 環境大臣表彰式

第1部では、自然公園の保護などに貢献した自然公園関係功労者に環境大臣表彰の授与がありました。

受賞者を代表して、壮瞥町の三松三郎さんが、「栄誉ある賞をいただきありがたいです。今後も一層自然環境の保全に努めていきたいです」と感謝の気持ちと決意を述べました。

第2部 基調講演

第2部では、自然公園財団専務理事の阿部宗広さんが「国立公園、地域で活かし、守る日本の宝」と題して国立公園設立の経緯などを説明。

その後、ミュージアムアドバイザーの染川香澄さんは、「人々の経験をより豊かにするには、コミュニティAMでの先進的なプロジェクト」として、来館者の満足度向上に向けた博物館の事例を取り上げ、基調講演を行いました。

第3部 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、真屋町長をはじめ関係者

5人のパネリストが「支笏洞爺国立公園指定100周年に向けて」をテーマに、未来に向けてどのようにして、この自然を守っていくべきかなどの議論しました。

真屋町長は「この地域は昭和24年に国立公園の指定を受け、洞爺湖町は観光のまちとして発展してきました。洞爺湖有珠山ジオパークは、関係市町とエコミュージアム構想を掲げ、さまざまな取り組みを行ってきた結果、2009年に日本で初めて世界ジオパークに認定され、湖や火山など自然の恵みを大いに受けています」と発言しました。



関係者によるパネルディスカッション